

まいろっさ

第4号

蓮如上人さまの おとりのりもの

そもそもこのごろ吉崎の山上に、一字の坊舎をたてられて、言語道断おもしろき在所かなともうし候う。なかにもことに加賀・越中・能登・越後・信濃・出羽・奥州七か国より、かの門下中、この当山へ、道俗男女参詣をいたし群集せしむるよし、そのきこえかくれなし。これ末代の不思議なり。ただごととおぼえはんべらず。

『御文(第一帖 第七通)』



真宗大谷派(東本願寺)
小松大聖寺教務所

〒923-0904
小松市小馬出町26
TEL: 0761-22-0555

[発行者]
小松大聖寺教務所長
保木 悦雄

[編集]
小松大聖寺教区教化委員会

8面

教区からのお知らせ
聞法会のご案内など

6・7面

函蓋相称

加賀市専光寺
出雲路香

5面

能登半島地震

ボランティアアレポート
炊き出しボランティア南加賀代表
小松市遠慶寺 加藤雅輝

2・3・4面

蓮如上人御影道中を歩いて

小松市光玄寺

佐竹圓修

御仏事の蓮如上人御影道中

小松市林町

清水教示

集
れんによしょうにん ごえいどうちゅう
特 蓮如上人御影道中



特集
蓮如上人御影道中

蓮如上人御影道中を歩いて

小松市 光玄寺 佐竹 圓修



「蓮如上人様のお通りー」
春たけなわの近江路から越前
路に響き渡る供奉人（ぐぶん）の
声に導かれて、4月17日京都御
本山を出発し吉崎別院まで、供
奉人8名と教導、一般参加10名
前後で一週間かけて歩きます。
23日から始まる蓮如上人御忌
（きよき）法要のため、御本山より蓮
如上人の御影（ごえい）を吉崎まで
お運びする「蓮如上人御影道中」
です。

往路は御下向（ごげこう）と言い、
湖西路を通り200km六泊七日、
御本山を17日午後1時発、吉崎
に23日午後8時着。御忌を十日
間勤め、復路は御上洛（ごじょうら
く）と言い、湖東路を220km七
泊八日、5月2日午前7時吉崎
出発、9日午後3時御本山着と
いう日程です。

下向式を終え出発。烏丸通（からす
まどおり）、御池通を過ぎ蹴上（けあ
げ）で一服。山科を過ぎるまでたく
さんの人々に出会いましたが、物
珍し気に眺める人、知らぬ顔で通
り過ぎる人、中には交通の邪魔と
迷惑そうにする人が目立ち、蓮如
様の御輿（ごこし）に拝礼をする人
は5、6人のみでした。



全行程歩き通すのみならず、随
行教導は御下向60ヶ所、御上洛
77ヶ所の会所（えしよ）に立ち寄り勤
行を勤め、法話をせねばならず、
かなりの難行になります。私は2
016、2017年に御下向、2
018年は御上洛を務めました。
御本山出発日の正午、御門首
室での御影改め、阿弥陀堂にて御



でと打って変わった人々の態度に
接し感激しました。近江路に入っ
た途端沿道の人々の雰囲気が変わ
り、蓮如様をお迎えする心が
姿に現れているように感じまし
た。

志賀の道路脇に「今年も蓮如様
に会えました」と喜ぶ車椅子の母
娘。高島白鬚神社手前の道路脇
で跪（ひざまず）き合掌する老婆。花
をお供えする母子。高島から今
津、マキノと沿道で出会う人々や
会所でお参りするご門徒の合掌
する姿から、一年に一度蓮如様
に会えるという喜びがひしひし
と伝わってきました。「蓮如上人
様のお通りー」という先達の声、
綱を引きながら誰言うともなく
出るお念仏の声に思わず私の口
からお念仏が出ていました。

行く先々の会所に寺と言わず在家と言わず、多少を問わず近在の人々が集いお参りされている姿に、蓮如様在世の頃が偲ばれ何とも言えず尊く有難い思いがしました。我ながらこんな席で教導として話をさせてもらえるなんて坊主冥利に尽きること、ふとお念仏を喜び育ててくれた祖母や「説教が出来て一人前の坊主やぞ」といつも言っていた父が今いたら一緒に喜んでくれるかなと思うと胸に迫るものがありました。

晴天の下、左に比良山（ひらさん）、右に琵琶湖を見、湖岸を歩き、愛宕山（あらちやま）を越え、枝垂れ桜、芝桜、水仙の花の中を歩いて行く、何と贅沢な旅だろうと足の痛さも忘れてしまいました。



御上洛では新緑の栃ノ木峠（とちのきとうげ）を越え、馬淵では承元の法難（※）で死罪となった住蓮坊と安楽坊の墳墓が印象的でした。この道中が300年も続いたのは蓮如様のご教化もさる事ながら、長い旅路を歩く供奉人の達成感とそれを各地でお待ち受けする人々の心尽くしとが相俟って、春を迎えた喜びと法を聴聞する喜びが重なるからだと思います。行く先々で出会った素朴で行儀のよい近江や越前のご門徒の佇まいに、真宗門徒の真の姿を教えられました。僧侶としての忘れられない体験でした。

※元久二（1205）年の興福寺による念仏批判から、承元元（1207）年後鳥羽上皇による専修念仏停止に次ぎ、法然の門弟4人が死罪とされ、法然及び親鸞に門弟7人が流罪とされた法難をいう。



「蓮如上人御影道中」の始まり 享保七年説について

名古屋教区教化センター研究員 小島智氏の『蓮如上人御影道中の起源に関する覚書』（2017年「センタージャーナル No.102」）によると、以下の通りである。

御影道中の始まりを享保七年とする説は、吉崎史誌編纂委員だった朝倉喜祐氏によって提唱されたもので、吉崎別院に隣接する願慶寺所蔵の古文書を根拠としている。その詳細を朝倉氏の著書『吉崎御坊の歴史』（1995年国書刊行会）に見ることが出来る。

享保六（1721）年に「吉崎惣道場」が「吉崎御坊」と称することになった際、蓮如上人御影が授与されている。その添え状が御影道中の起点として重要である。

端書無之

往古其道場へ被成御免候 信證院御影漸く可及損却付今度右之 尊影御写被成下候間難有被存 渴仰尤候
御賛 御名 御裏書等者追而 可被成下候 為其如是候也
享保六丑年八月廿八日

若林蔵人

七里弾正重順

下間治部卿法橋頼伴

越前国坂北郡

細呂宜郷吉崎

御坊

北西弘編著
『吉崎御坊願慶寺文書』より

往古、吉崎惣道場に教如上人より授与された信証院（蓮如上人）御影が損傷しているのが本山に返還され、その写しが授与されたことが書かれている。

また願慶寺由緒書に、教如上人授与の御影について「但し此の御影享保六丑年より御本山へ御引上げに相成り毎年三月御下向の事この箇所がある。

以上から、教如上人授与の御影は享保六（1721）年に本山に上納され、新たに写しの御影が授与されたが、吉崎の門徒衆にとつて古い御影は蓮如忌になくなくてはならないものであり、翌年享保七（1722）年より法要期間のみ本山から返していたたけようになつたと考えられる。

道中始まりの主な説として享保七年説のほかに、延宝年間（1673～81）説、宝暦年間（1751～64）説がある。

蓮如上人御影道中
ホームページ
QRコード



御影道中御下向（京都→吉崎）
4月17日お発ち4月23日お着き

蓮如上人御忌法要（吉崎別院）
4月23日から5月2日まで

御影道中御上洛（吉崎→京都）
5月2日お発ち5月9日お着き

特集
蓮如上人
御影道中

御仏事の蓮如上人御影道中

小松市林町 清水教示



私と蓮如上人御影

道中のご縁は、72歳の時に始まります。林町の勝光寺世話役となり、同時に大聖寺教区東組の町世話役となつて組講の聞法会に出ていた時に、蓮如上人御影道中の御下向（げこう）の供奉人（ぶにん）をされた方のお話を聞き、初めてそのような御仏事があることを知りました。また、町内の親戚のY君が病気を抱えながら、東本願寺から吉崎別院までの御下向を完歩したこともきっかけです。

翌年の第341回蓮如上人御影道中御下向に申し込んだところ、供奉人として参加してほしいと連絡がありました。御影道中を歩いたこともなく最後まで歩くことができるか心配しましたが、何とかなるだろうと腹をくくり、供奉人をお受けしました。

4月17日午後2時30分東本願寺出発。先導マイク係の私は「蓮如上人様のお通り」と触れながら御輿（おこし）車の50メートル先を歩いて琵琶湖西側の近江路を吉崎に向かいました。沿道の人々が合掌したり、花を供えたり、お賽銭を渡したりして蓮如上人を出迎えてくれます。福井県木の芽峠では、御輿車から蓮如上人御影を下ろして背中に担いで越えます。この時が蓮如上人と一体になれるときで、ここだけに参加される方が多くいます。



4月23日午後7時30分頃吉崎に到着。吉崎消防団員に蓮如上人御影を渡し、そこから高提灯を先頭に町内を練り歩き、吉崎別院の階段を、御輿を担いで一気に駆け上がり別院に到着します。この時が最高潮に盛り上がる時です。ここから蓮如上人御忌（ぎよき）法要が10日間続きます。

5月2日午前7時に吉崎別院を出発し、5月9日午後3時30分頃東本願寺に到着する御上洛（じょうらく）をもって蓮如上人御影道中が終わります。

かつて供奉人は、ほとんど石川県・福井県の門徒が占めていましたが、近年少なくなりました。真宗王国といわれた加賀門徒、先達の願いが現在も息づいているはずです。今こそ蓮如上人が布教された足跡をたずね仏法聴聞し、御仏事の蓮如上人御影道中が受け継がれていくことを願っています。



能登半島地震

ボランティアレポート

「まず自分の目でこの状況を見てほしい」



炊き出しボランティア南加賀代表
小松市遠慶寺 加藤雅輝

令和6年1月1日午後4時

11分、能登地方を震源とする能登半島地震が発生しました。この震災を機に小松大聖寺教区内の有志で「炊き出しボランティア南加賀」という任意団体を立ち上げました。

私たちは1月中には現地に足を運ぶことができず、2月に入ってからボランティア活動が始まりました。まず初めに七尾での活動拠点になってくださったいた常福寺さんに支援物資倉庫を設置し、その後は炊き出しや片付けなどのボランティア活動を能登教区の方々や全国から来てくださった仲間とともにしてまいりました。



5月後半からは奥能登出身

の先輩が中心となってくださり、居酒屋形式の炊き出しを始めました。居酒屋形式にすることによって被災者の方同士で懐かしみながら会話をさしていただきました。それまでの炊き出しでは配食が中心だったので、じっくりとお話を伺う機会は少なかったのですが、私たちも飲食を共にすることで発災当時やその後の不安など、たくさんのお話を聞かせていただくことができました。



梵鐘の運び出し

そんな中、9月21日に豪

雨災害が起こり、輪島市内の浄明寺さん、町野地区で泥出し作業をしてまいりました。ようやく少しずつ前を向いて前進し始めていた時期でもあったので、豪雨の甚大な被害状況を目の当たりにし、言葉が出ませんでした。



9月の豪雨被害



居酒屋形式の炊き出し

震災を縁に私たちがつながりを持たせていただいた方々は、自らも被災されたという現実の中において、つながりを大切にしながら活動を通して人と人とのつながりの大切さを学ばせていただいております。能登の方々からは、「まず自分の目でこの状況を見てほしい」という声を多くお聞きしました。この声は、報道の情報だけではなく、自分の五感で能登の方々の思いやその現状を感じてほしいということだと受け取っています。

私たちはこれからも聞き合い、語り合うことを大切に活動を続けてまいりたいと思っています。

炊き出しボランティア

南加賀

Facebook QRコード



【炊き出しボランティア南加賀 活動支援金窓口】

金融機関名：はくさん信用金庫 小松中央支店 普通預金 0961683
口座名義：炊き出しボランティア南加賀（タキダシボランティアミナミカガ）

函 かん

蓋 がい

相 そう

称 しょう

法話のページです。「函蓋相称」とは、曇鸞大師が、
函（はこ）と蓋（ふた）がぴったり合うように、
如来の御心と衆生が出遇っている状態を喩えた言葉。

Izumoji Kaori



加賀市専光寺
出雲路 香

孤独の「独」から独尊の「独」へ

～ひとりで歩まねばならぬ道でも
あなたの声が聞こえる～

●「無有代者」

これは仏説無量寿経の中にあ
る一文で、有（たれ）も代
（か）わる者（もの）無しと読
みます。また、この一文の前
は「人在世間 愛欲之中 独生
独死 独去独来 當行至趣 苦
樂之地 身自當之」とあり、そ
して「無有代者」と続きます。

人は、世間の欲や情、煩惱が
渦巻く中に在りて、独り生れ独
り死し、独り去り独り来（き
た）る。それぞれがその人生の
中において、それぞれの苦しみ
楽しみに出会っていかねばなら
ない。人生の苦樂は、この身自
らが引き受けるほかになく、誰も
代わってもらふ事は出来ません。

●「天上天下 唯我独尊」

意識にはこの様に書かれていま
すが、何と厳しいお言葉なので
しょう。どんなに分かり合いた
い、交わり合いたいと願ってみ
ても、結局人は孤独な存在であ
り、誰にも代わってもらえない
という、いのちの現実を言いた
てられて、何か突き放されたよ
うな淋しい気持ちにもなりそう
です。

こちらは釈迦様がお生まれ
になった時、七歩歩かれて言わ
れたというお言葉です。「天上
天下 唯我独尊」天にも地にも
この世の中に我々はそれぞれ唯
だ独り、比べることなく、いの
ちのままに尊いと。

●「三界皆苦 吾当安此」

そして、天上天下唯我独尊
のあとに「三界皆苦 吾当安
此」と続きます。三界とは迷
いの世界、その迷いの世界に
いる人を六つの道に分けたも
のを六道と言ひ、その六道か
ら抜け出せずにいる事を六道
輪廻と言ひますが、「一切皆
苦」とも言われる様に、人生
は皆苦なりという意味です。

この「一切皆苦」について、
ある先生はこの様に教えてく
ださいました。人生皆苦なり
のこの「苦」は、私達の思う
苦樂の苦ではなく、自分の思
いに適（かな）えば喜び、思
い通りでなければ悲しむ、そ
うやって一喜一憂を繰り返し、
そこを一步も離れずに抜け出
せずにいるその姿が「苦」で
ある、そういう意味ですと。

そして釈尊は、吾当安此「吾（われ）は迷える衆生を安穩に導く」と誓ってください。生死（しょうじ）出づべき道（迷いを超えていく道）を示してください。です。

●七歩には意味がある

ここでお釈迦様が七歩歩かれたという、この事の意味をたずねてみたいと思います。どうして歩かれた数が七歩なのでしょう。それは、先程の三界六道の生死の迷いを超えたところの七歩目だからです。「如来所以興出世 唯説弥陀本願海」と正信偈にもあるように、釈尊の出世本懐（お生まれになった真の目的）といわれるところです。釈尊は阿弥陀仏の本願を説くためにお生まれになった。そ

してそれは、あなたひとりがお目当てなのですよという事なのです。

●そのままをただけない私

しかし、誰と比べる事もなくいのちのままに尊い、代わる者無しと教え示されていて、常と比較の中でしか生きられない私があります。思い通りであれば満足した気になり、そうでなければ腹を立ててみたり他者を羨み嫉んでみたりして、善い時も悪い時もそれでありのまま、そのままにいたたく事は、なかなか難しい事であると思います。



●お念仏に生きる

人々のすがた

また、私はどうしても南無阿弥陀仏とお念仏を称える事が出来ませんでした。せつかく聞こえてくる声も右から左です。それでも、そんな私でも南無阿弥陀仏に願かせていただくことが出来たのは、紛れもなく、私より先にその道を歩んで下さった方々の存在によるものです。自分の思いやはからいを超えて、私は願われた存在であったという事を、教えと共に歩んだ方々が身をもって教え示して下さい、またどうかあなたもお念仏に出遇って下さいと伝え続けて下さったからなのです。

●ひとりであって、ひとりではない

すでにその大きな願いの中にある私であった事に気付かされた時、ひとりであってひとりではない私のいのちを知られました。そしてそれは、他者のいのちも同様であるという事も。真には誰とも交わる事の出来ない在り方をして、いる私を知らされた時、それでもそのいのちを見捨てる事なく撰（おさ）め取って救わんとする願いの中で、たとえ孤独な道であっても決してひとりぼっちではないのだと教えられます。真のひとり、すなわち釈尊から始まる長い長い歴史の中で、人から人へと受け継がれてきた「南無阿弥陀仏」の教えをいただくひとりとって、その道を歩もうとする時、私の中にもお念仏の声がこだまします。

教区の主な聞法会のご案内

小松大聖寺教務所 常磐会館 (小松市小馬出町26)

十二日講

毎月12日

●午前9時30分～11時30分

4月 南砺市 大福寺 太田 浩史 氏

5月 白山市 道因寺 相馬 豊 氏

6月 白山市 願隆寺 土佐 明 氏

日曜講座

毎月第1・第3日曜日

●午前9時30分～11時

4月

6日 小松市 長圓寺 松永 悠 氏

20日 加賀市 本善寺 飯貝 宗淳 氏

5月

4日 小松市 勸正寺 加藤 正現 氏

18日 小松市 上杉 彰子 氏

6月

1日 小松市 興宗寺 但馬 諒 氏

15日 小松市 真行寺 松岡 祐真 氏

真宗入門講座

御講で読まれる
お手紙が知りたい！

講 師 出雲路 修 氏
(加賀市毫攝寺)

3/21 江沼郡の御消息

4/25 郡中御影報恩講特集

5/30 能美郡の御消息

6/20 十二日講

・示談講の御消息

時 間 午後6時～8時

持ち物 勤行本、念珠

会 場 小松大聖寺教務所
(小松市小馬出町26)

参加費 500円

問合せ 小松大聖寺教務所
(0761-22-0555)

大聖寺教務支所 常葉会館 (加賀市大菅波町78-1)

示談講

隔月22日前後

●午後1時30分～3時30分

5月22日(木)

小松市 松榮寺 南出 香樹 氏

7月22日(火)

小松市 遠慶寺 加藤 雅輝 氏

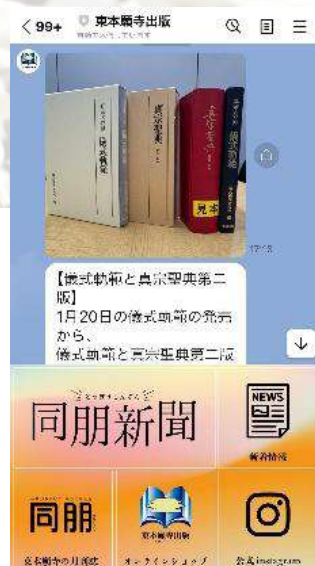
小松大聖寺教区のお知らせは
教区公式ライン・
ホームページもご活用ください



教区公式ライン
QRコード



教区ホームページ
QRコード



【東本願寺出版(本山)からのお知らせ】

「東本願寺出版公式LINE」を開設いたしました。この東本願寺出版公式LINEでは、「イベント」や「新刊発行」の情報、「キャンペーン」や「本の楽しみ方」をはじめ、毎月発行の『同朋新聞』、月刊『同朋』の内容等についてもお知らせいたします。

ぜひ、皆さんご登録ください🙏

『同朋新聞』がいつでもスマホで見られます。

LINE登録はこちらから👉



@469jqkzt

編集だより

小松大聖寺教区となり2年目。
蓮如上人とご縁の深い当教区の皆様方に「蓮如上人御影道中」に関心を持っていただきたく特集しました▼福井県史によると、慶長7(1602)年本願寺の東西分立後、吉崎一帯の門徒はその過半が東派に帰したので、慶長16(1611)年、東本願寺教如上人は、蓮如上人御影を吉崎惣道場に授与しました。門徒たちは、3月25日の蓮如忌に吉崎山上の坊舎跡地に飯屋を建て、この御影を掛けて法要を勤めたとされています▼現在、御影道中でお運びしているのはこの御影ではなく、享保6(1721)年に新たに授与された御影だそうです▼6年前、御下向お着きの4月23日夜に参詣しました。御影が別院本堂に到着した時の熱気、厳肅な儀式、正信偈の響き。300年の時を重ねる真宗門徒の信仰文化の空気に圧倒されました。(M)